

自己評価報告書

平成 23 年 3 月 25 日現在

機関番号：12102
研究種目：基盤研究 (C)
研究期間：2008～2012
課題番号：20530877
研究課題名 (和文) 行動障害を示す発達障害児童への対応に焦点を当てた教員研修プログラムの開発
研究課題名 (英文) Development of in-service training programs for teachers to treat behavior problems in students with developmental disabilities.
研究代表者
野呂 文行 (NORO FUMIYUKI)
筑波大学・大学院人間総合科学研究科・准教授
研究者番号：30272149

研究分野：特別支援教育
科研費の分科・細目：教育学・特別支援教育
キーワード：行動障害・教員研修・機能的アセスメント

1. 研究計画の概要

発達障害者支援法や特別支援教育体制の拡がりにより、通常の学校や保育の現場において発達障害のある幼児児童への指導が課題となっている。特に行動障害を示す幼児児童への対応については、通常の教育活動に支障を来すなど大きな問題となっている。このような問題に対しては、応用行動分析学における機能的行動アセスメントとそれに基づく支援の実施が有効であることが示されている。

これまでの機能的アセスメントの研究では、専門家が、ある特定の幼児児童の問題に関してコンサルテーションを実施する形態で検討されていた。しかし、コンサルテーション終了後の成果の維持や拡がり（他の幼児児童の行動障害への応用など）が課題とされていた。そこで本研究は、コンサルテーションや研修の機会を通じて、教師や保育者が独力で問題解決できるための支援の条件を検証することを目的とした。その際にポイントとなる条件として、「クラス単独ではなく、全校的（全園的）体制での支援」「既存の外部支援機会（例えば、巡回相談）の活用」「問題解決型の研修プログラム」の3つをあげて、それぞれについての検討を実施することを目的とした。

2. 研究の進捗状況

(1) 全校的（全園的）体制による支援(研究1)：通常の小学校を対象として、在籍する全校児童の挨拶行動に関する介入を、教師に対する研修プログラムに基づいて実施し、その効果を検討することを目的とした。全学級において、担任教師に対して、挨拶に関するロールプレイを朝の会に実施するよう依頼し

た。また、毎朝、挨拶ができた児童数を、折れ線グラフで教室内に掲示する「グラフ・フィードバック」の手続きも導入した。この結果、児童の挨拶行動の促進に効果があったことが示された。また研修で取り上げた支援手続きの適用範囲を拡大する教師も観察された。

(2) 既存の外部支援機会の活用(研究2)：保育園2園と療育専門機関の職員が研究参加した。情報共有シートを作成し、保育士に対して、幼児の様子を記録するように依頼した。情報共有シートの記録は、イントラネットを通じて療育専門機関へと送付された。その記録に対する助言も、療育専門機関から保育士へと返送された。その結果、66.7%の助言内容が実行され、そのうち90.9%が他の場面や他の幼児に対して応用されていた。一方、実行に対する負担感などの課題が示された。

(3) 問題解決型研修プログラム(研究3)：単なる知識教授型ではなく、対象幼児の行動記録とその記録に基づく支援方法の検討を含むPDCAサイクルを循環させるスキルの教授を目的とした研修プログラムの実施の効果を検討することを目的とした。対象者は、保育者18名であった。約1ヶ月に1回2時間、計4回のプログラムを実施した。その結果、研修参加した保育者において、支援プログラムを自ら作成する行動が観察された。さらに、保育中の行動観察を通じて、保育者の支援行動の改善と対象幼児の行動改善が観察された。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

研究計画において示した3つの条件のそれぞれについて、個々の具体的な実践研究を实

施し、一定の成果を得ていることから、おおむね順調に進展しているといえる。

4. 今後の研究の推進方策

今後、上述した3つの条件を統合した形での研修プログラムの実施と、その成果の検証を行う予定である。また、各研究の位置づけを整理するために、海外学会での情報収集等を予定している。それらの情報に基づいて、学会発表や論文投稿につなげていくことを予定している。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計2件)

- ①大久保賢一、高橋尚美、野呂文行、通常学級における日課活動への参加を標的とした行動支援－児童に対する個別的支援と学級全体に対する支援の効果検討－、特殊教育学研究、48巻5号、383-394、2011、査読有
- ② Yoichi Gomi, Fumiyuki Noro、Functional-based interventions for behavior problems of a student with a developmental disability: School-based treatment implementation、The Japanese Journal of Special Education、47/6、457-469、2010、査読有

〔学会発表〕(計5件)

- ①五味洋一、学級集団の随伴性分析に基づく準備行動および課題従事に対する支援、日本行動分析学会第28回大会、2010年10月9日、神戸親和女子大学
- ②野呂文行、自閉症児に対する学校と家庭との連携による指導の取組、日本特殊教育学会第47回大会、2010年9月20日、宇都宮大学
- ③野呂文行、特別支援学級における自閉症教育の在り方(1)-自閉症の児童生徒を念頭においた特別支援学級の教育課程の編成を中心に-、日本特殊教育学会第47回大会、2010年9月20日、宇都宮大学
- ④野呂文行、発達障害者の主体的な生活支援における「構造化」の課題と展望、日本特殊教育学会第48回大会、2010年9月18日、長崎大学
- ⑤阿相幸範、時間教示を用いたアスペルガー障害児童に対する援助要求行動の形成、日本特殊教育学会第48回大会、2010年9月18日、長崎大学